



『 肺がんについて 』

厚生労働省が平成26年に発表した人口動態統計によると、平成24年のがんによる死亡者数のうち、肺がんは男性の第1位、女性では第2位となっており、一貫して上昇を続けています。

肺がんの原因の代表的なものに喫煙があります。しかしながら、非喫煙者にも肺がんが発生することがあり、原因はすべて分っているわけではありません。

肺がんは、顕微鏡による検査(病理検査)で腺癌、扁平上皮癌、大細胞癌、小細胞癌の4つの組織型に分類されます。

肺がんの治療は、手術、放射線治療、薬物療法、緩和医療があります。手術や放射線治療は局所の治療であるのに対し、薬物療法は全身に存在する癌細胞に有効な全身治療である点が異なります。どの治療が良いか、どの治療を組み合わせるかは、肺がんの種類(組織型)、進行度、患者様の元気さにより決められます。

肺がんの症状としては咳や血痰などがありますが、初期には無症状の場合がほとんどです。

したがって、早期発見のために、検診や人間ドッグなどで定期的にチェックすることが大切です。



鹿児島厚生連病院
呼吸器外科部長
酒瀬川 浩一